

第6学年 道徳学習指導案

日時：平成28年10月27日（木）第5校時

場所：6年1組教室（3階）

授業者：田中 里佳

児童数：35名

1 資料名：「父の手紙」

（出典：広島県教科用図書販売株式会社）

家族愛 C-（15）

2 指導の立場

(1) 児童の実態

本学級は、家族思いの児童が多い。保護者からは、進んで家の手伝いをしてくれるという話をよく聞く。しかしその反面、第二次成長期に伴い、自我の目覚めや自立への欲求が高まり、親の言葉に素直に従えなくなったり、反動的になったりしているという話も聞く。

また、祖父母と三世代で暮らしている児童が多く、家には常に家族がいる環境である。この学習を通して、家族に対する感謝の心や敬愛の念について改めて考えさせるとともに、家族のために働こうとする意欲を高めたい。

(2) 本時の指導について

【年間指導計画の工夫】

情報機器についての正しい知識を得るために、短学活の時間を使って事前に、映像教材「この差はなんなの？」（広教：事例で学ぶNetモラル）を視聴する。携帯電話などの情報機器は、目的に応じて適切なものを選択して利用すれば、便利なが多くあることを理解し、本時の学習につなげる。

【指導方法・指導形態の工夫】

「議論する道徳」を具現化するために、「ふかめる」の終末は、グループ活動を設定する。グループごとに議論する時間を設けることにより、一人一人が考え、発言する機会を増やす。

また、グループで議論し、考えを深めることで、主人公がすぐにメールをした理由や、主人公がメールに書ききれなかった気持ちを考えさせ、父親に対する思いを想起させたい。

【学習環境の工夫】

グループ活動では、タブレットPCに資料の絵を表示し、それらを見たり、拡大表示させたりしながら話し合いができるようにする。授業の終盤には、教師の説話に関する写真を映すことで、その場面における主人公の気持ちや、教師の体験を想起しやすいように工夫する。

3 本時のねらい

気持ちがすれ違っているように思えても、家族は自分のことを大切に思っていることに気付き、家族のために進んで役に立つことをしようとする心情を育てる。

4 本時の展開

※ICT活用について

	過程の目標	主な学習活動	指導・援助
つかむ	○本時の主人公を理解し、学習への意欲をもつことができる。	1. 主人公を確認する。	・主人公の父親は単身赴任のため、一か月に一度しか会えないことをおさえる。
ふかめる	○あらすじを知り、感想をもつことができる。  ○父に反発する主人公の気持ちを考えることができる。  ○仲間の誘いで遊びに行く主人公の気持ちを考えることができる。  ○父の手紙を読み、力が湧き出る主人公の気持ちを考えることができる。	2. 教師の範読を聞き、主人公の気持ちがわかる場所に線を引く。 ・弟の明をかばう父に腹を立て、トランプを投げつけるところ。 ・「ゆだんしていると負けてしまうぞ。」という父の言葉にがっかりするところ。 ・父からの手紙を読んで、力が湧き出るところ。 ・お父さんと話がしたくてたまらなくなり、メールを送るところ。  3. 主人公の気持ちを考える。 ○お父さんに「ゆだんしていると負けてしまうぞ。」と言われた主人公は、どんな気持ちなのだろう。 ・お父さんは、弟ばかり味方するから腹が立つ。 ・ぼくだって、一生懸命練習しているのに。 ・お父さんは、いつもぼくの練習を見ていないくせに ・僕のことを認めてほしい。 ・せっかくお父さんと話ができるチャンスだったのに。 ・もっと話したいことがいっぱいあるのに。  ○主人公は、友達から遊びに誘われて少し迷ったよね。その時、主人公は、どんなことを考えたのだろう。 <b>友達の家に行く</b> → <b>お父さんの帰りを待つ</b> ・せっかくの誘いだから、遊びに行こう。 ・どうせ話を聞いてくれない。 ・どこかに出かけたし、まあいいや。 <b>迷い</b> ・本当はお父さんと話したいな。 ・話したいことはたくさんあるのに。 ・またしばらく話ができないかも。  ○お父さんからの手紙を読んで、主人公は話がしたくてたまらなくなったよね。急いでメールをした主人公は、お父さんのどんな気持ちに気付いたのだろう。（グループ活動） <b>後悔</b> ・もっとはやく帰ってこればよかった。 ・本当は、お父さんに会いたかったな。 <b>野球への意欲</b> ・僕の練習を観てくれていたんだね。今度の試合、頑張るね。 ・お父さんの手紙のおかげで、頑張ろうと思えたよ。 <b>家族の役割</b> ・僕がお母さんや弟を支えて頑張ろう。 ・単身赴任でお父さんがいない間、家のことは任せてね。	・教師の範読を聞きながら、共感できるところに線を引くよう指導する。  ・お父さんに反発する主人公の弱さに共感させる。  ・主人公の道徳的価値の高まりを、板書する文字の高低で表す。  ・児童の発言を類型化し、自分の心の弱さと照らし合わせながら考えるようにする。  ・児童の意見を聞いて、父に対する思いとその他の思いを分類して板書する。
	○今までの経験を振り返り、家族のために進んで働こうという思いをもつことができる。	4. 自己を見つめる。 今までの生活の中で、家族の温かさを感じたこと、始めは気持ちがすれ違っていたけど、本当の気持ちを知ってうれしかったこと、家族の中の自分の役割について振り返る。	※タブレットPCに資料の絵（お父さんからもらった手紙・メール画面）を表示し、それらを見たり、拡大表示させたりしながら話し合いができるようにする。 ・野球を頑張ろうと言う意見が多い場合は、「頑張るのは野球だけだろうか。」と問い返す。 ・メールを使って、少しでも速くこの気持ちを伝えたかったことを押さえる。
まとめる	○家族の信頼関係について考え、家族のために進んで働こうと考えることができる。	5. 教師の説話を聞く。 教師の体験談をもとに、家族は、互いに深い信頼関係で結ばれていることについて考える。	・教師の体験から、家族の絆を感じ、自分の役割を再確認した出来事を話す。 ※実際に教師が父親からもらったメールを電子黒板に映す。